

第651回本委員会の主要議題と概要

09/07/01

2009年7月1日

第651回本委員会の主要議題と概要

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会（会長 坂元龍三 東洋紡績株式会社社長）は、7月1日に第651回本委員会を開催した。主要議題と概要は以下の通り。

1. TOKYO FIBER展ミラノ開催の評価と東京開催について

4月22日から27日の間、ミラノで開催された第2回TOKYO FIBER展の評価について、TOKYO FIBER展実行委員会の柳田実行委員長より報告があり、それを踏まえた東京開催の考え方についても説明があった。

今回のTOKYO FIBER展は、会場をミラノ市街地の中心にあるトリエンナーレ美術館を選び、開催時期を、世界のデザイン展として最大規模のミラノサローネに合わせての開催だったこともあり、来場者は約38千人の多数にのぼった。世界60ヶ国以上から、一般人、デザイナーに加えて、建築、家具・インテリア、ファッション、自動車、家電等々の広範で多様な分野、業界を含む来場者であった。

世界的に高名なクリエイターによる優れた作品を通じて、素材と作品間の必然性、又は両者の融合が訴求され、来場者に対する日本の合繊技術の高さや素材の素晴らしさを世界に向けて強く発信できたとの評価であった。TOKYO FIBER展が終わって1ヶ月余り過ぎた現在もなお、内外のメディアからは毎日複数のプレスコンタクトを受けている状況である。

東京開催はこうした非常に高い評価をベースに将来のビジネスチャンスを視野に入れながら、同時に、日本の中小テキスタイル企業に新しい視点での素材用途展開のヒントとなる機会を提供すること、従って、多くの関連異業種関係者を始め、小売、中小テキスタイル企業、マスコミ関係者等からの多数の来場を意識しつつ、開催準備を進めている。

（注）TOKYO FIBER展に関するプレスコンタクトはTOKYO FIBER’09PR事務局（伊藤忠ファッションシステム内）
山本氏 TEL：03-6439-3117、e-mail: info.press@ifs.co.jpに一本化しております。

2. 第15回中国国際化繊会議の概要について

毎年開催されている中国国際化繊会議が6月11～12日に浙江省・杭州市（シャオシャン）にて開催された。同会議に事務局担当職員が出席したので、その概要について報告があった。

今回の会合において、中国化繊協会は、「中国化繊工業の世界的金融危機の影響分析と対策」と題する報告書（約30頁）を公表した。同報告書には、世界同時不況が中国化繊工業に及ぼす影響、不況を乗り越えて成長を回復するための対策が纏められている。

中国化繊協会は、不況による影響として、①原料価格の急落と操業リスクの高まり、②需要減退（化繊及び関連製品の輸出鈍化）、③設備投資の急速な落ち込み、などを挙げている。

2008年の化繊供給量は2,316万トン、前年比0.4%増と過去26年で最低の伸び率に留まった。設備稼働率は2008年第4四半期を底にして、本年に入ってから回復基調を見せているが未だ低い水準に留まっており、業界は引き続き警戒感を持って見守っている。

他方、中国国務院は、本年4月に繊維産業調整・振興計画を公表。化繊工業に関わる対策のポイントとして、(1) 先進技術による設備技術・生産管理水準の向上、(2) 各種化繊素材の高機能化・高付加価値化、(3) ハイテク繊維研究開発の加速、などが盛り込まれている。中国化繊協会では化繊工業の活力を早期に取り戻すため、この計画を既にスタートさせている。

▶配布資料1：第15回中国国際化繊会議の概要報告 PDF (233KB)

3. 2008年度化学繊維ミル消費量の調査結果について

調査委員会市場調査分科会では、毎年、国産・輸入の化学繊維のミル消費量、つまり国内ミルへの投入量についての調査を行っている。2008年度調査の結果が纏まったので、同分科会の福原主査（ユニチカファイバー(株)企画管理部部長代理）より報告があった。

近年、ミル消費量は横ばいで推移してきたが、2008年度は世界的な景気後退の影響を受けて、下期（10-3月）が前年比30%減と大きく減少したことにより、年間では前年比14.3%減の83.6万トンとなった。

国産品・輸入品別では、これまで国産品減少、輸入品増加の構図であったが、今年は国産品13.6%減、輸入品16.2%減と、ともに減少した。国産・輸入品比率は、74：26で、前年とほぼ同じであった。

用途別では、衣料用19.3%減、家庭・インテリア用12.9%減、産業資材用12.4%減といずれも2桁の減少となったが、この3大用途の比率は、前年の25：41：34から24：42：34と大きな変化はなかった。

また素材別でも調査対象の全ての素材が前年比減少した。

▶配布資料2：2008年度化学繊維ミル消費量の調査結果について PDF (392KB)

4. 2009年度協会活動テーマについて

資料に従って大八木新会長より説明があった。

▶配布資料3：2009年度協会活動テーマについて PDF (26KB)

以上